

直貼り防音フロア

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

木質床材

一般住宅

マンション直貼り

リフォーム向け

衝撃吸収床材

天然木フロア

化粧シートフロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・室内はしご

内壁材

あかりサポート

ぬれ縁

ラスカット

構造用ハイベストウッド

P&C-MJ SYSTEM

設計・施工資料編

フロア施工

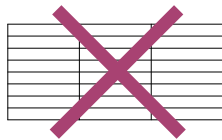
1 墨出しする

周囲の納まりを考慮し、貼り始めの基準線を墨出ししてください。

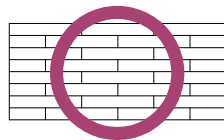
2 割付けする

貼りは方、「レンガ貼り」または「千鳥貼り」とします。平行貼りは行わないでください。

基準線に沿ってフロアを仮並べし、割付けに従って切断します。



平行貼り



レンガ貼り

⚠ ●切断の際、壁とフロアに3～5mm程度すき間を設けてください。

3 際根太を施工する

防音フロアの施工端部が上がり框／床見切り／掃き出しサッシ／ドア枠／和室敷居等の場合、必ず際根太を使用してください。

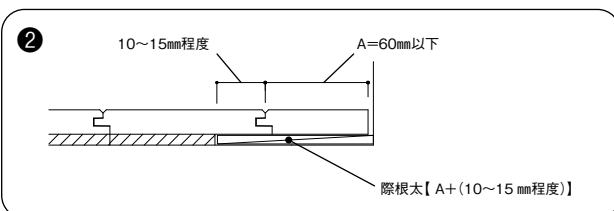
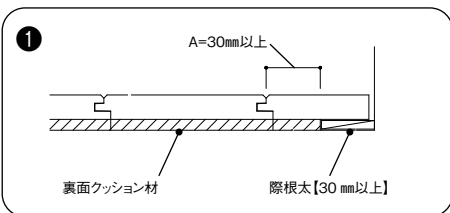
内装ドア等の重量物をフロア面に施工する場合、裏面のクッション材を取り除き、際根太を入れてください。

壁周囲の巾木下は、際根太を使用しなくても構いません。以下の点に留意し、施主様／ゼネコン様／施工業者様で協議し、仕様をお選びください。

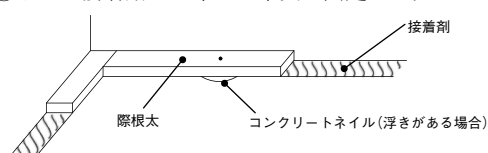
際根太を使用	壁際に家具を置いた際、室内側に傾くことがあります。この場合、家具の転倒防止器具等をご使用ください。
際根太を不使用	壁際を歩いた際または家具を置いた際、巾木下部にすき間が生じます。

①同梱の際根太を30mm幅以上に切断します。

下図Aの長さは基本的に30mm以上確保(①)してください。仮にAが30mm以上確保できず壁際等フロア幅が60mm以下になる場合は、際根太の幅を隣接するフロアとのかん合部から10～15mm程度またぐ長さ(②)にしてください。



②下地に接着剤を塗布し、確実に固定します。



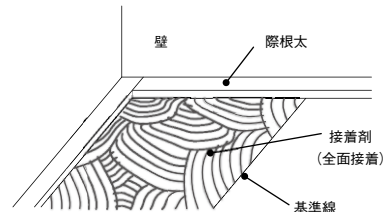
⚠ ●必ず浮きがないことを確認してください。浮きがある場合はコンクリートネイルを増し打ちしてください。

ラスティック フェイス防音床暖45 VC／防音床暖40 VC
メイボクデザイン防音45／防音床暖45／防音床暖40
カナエル R防音45／防音床暖45／防音床暖40
カナエル C防音45／防音床暖45／防音床暖40

4 指定の接着剤を塗布する

500～600g/m²を目安に接着剤付属のクシ目ゴテを用いて全面に塗布します。

⚠ ●『施工にあたっての注意』を参照し、必ず指定の接着剤を使用してください。
●接着剤が多すぎると、かん合部からはみ出すことがあります。適量を塗布してください。

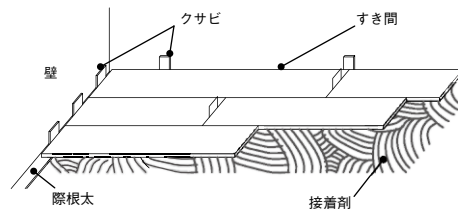


5 フロアの施工

以下の手順番号に沿ってフロアの施工を行います。

①割付けしたフロアを基準線に沿って1列分施工してください。

Ⓢ施工ポイント③を参照し、フロアどうしを軽く突き合わせるようにして、長手方向の継ぎ目すべて、短手方向の継ぎ目は2列おきに同梱のスペーサーを入れてください。



⚠ ●壁とフロアの間は3～5mmのすき間を空け、クサビ等でフロアが動かないようにしてください。
●フロアと壁のすき間は、巾木や見切り等をフロアの上にかぶせ、見えないように納めてください。
●かぶせ量の少ないソフト巾木は使用しないでください。
●施工時は、かん合させるフロアをできるだけ近くにおき、すらし量を少なくしてください。すらし量が多いと接着剤溜まりができ、反り／突上げ等が発生します。
●フロアは無理に叩き込んだり蹴り入れしないでください。
●ゴムハンマー等を使用する場合は、フロア表面に色付着や叩き跡等がないことを確認してください。黒色ゴムハンマーや劣化したゴムハンマーは使用しないでください。
●スペーサーは、当日の施工終了後に取り除いてください。翌日では取れなくなることがあります。
●接着剤がフロアの表面に付いたり、かん合部からはみ出した場合、乾いた布で速やかに拭き取ってください。硬化すると取れなくなります。

②1列目と同様にして2列目以降を施工してください。

⚠ ●施工中は1時間に1度、目隙／浮きがないことを確認してください。浮きが生じている箇所は重しを載せ、一晩放置してください。

③貼じまいのフロアを施工してください。

また、フロアと壁のすき間はクサビ等で仮固定してください。

⚠ ●クサビは接着剤硬化後、取り除いてください。

養生

施工後は、工事完了まで以下に留意して養生してください。

- 表面にキズ／目隙／浮きがないことを確認してください。
- 工事完了までフロア用養生シート等で表面を十分に保護してください。
- 養生テープは床用養生テープを使用してください。
- 養生中、雨水等が養生シートにしみこまないようにしてください。
- 凹凸のある硬質の養生ボードは使用しないでください。
- 養生中、室内の換気は充分に行い、下地材やフロア等に結露等が生じないようにしてください。
- 養生部分に脚立や重量物を置く場合は、必ず養生の上に合板等を敷いてください。

直貼り防音フロア

施工のポイント

※施工については必ず、施工説明書に従って正しく施工してください。

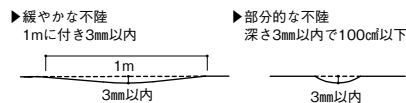
施工ポイント ① 下地の含水率／不陸の確認

下地モルタルは**最低3週間以上の乾燥期間**をとり、**含水率を10%以下**にしてください。

【乾燥の目安】

最も乾燥しにくい部分の下地表面に、1m×1m程度のポリシートの四周を布テープ(ガムテープ)止めにより被覆密閉し、24時間以上放置後、シート下のモルタル面が黒く変色しないことを確認してください。

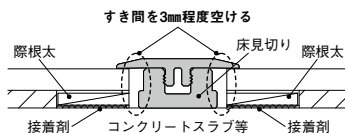
下地が十分に乾燥し、平滑であることを確認してください。



施工ポイント ② 長スパンで施工時の床見切り使用

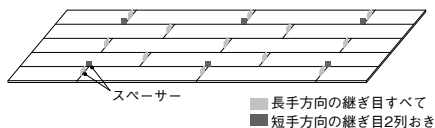
フロアを長手方向に連続して8枚以上施工する場合、必ず8枚ごとにかぶせタイプの床見切りを使用し3mm程度のすき間を空けて施工してください。

玄関～廊下、リビングなど長スパンで施工する場合、リビング入口/ドア下にかぶせタイプの床見切りを使用してください。



施工ポイント ③ かん合部にスペーサーを使用

フロアどうしを軽く突き合わせるようにし、長手方向の継ぎ目すべて、短手方向の継ぎ目は2列おきに同梱のスペーサーを入れてください。

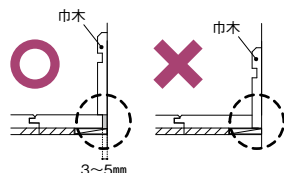


- 無理に叩き込んだり、蹴り入れたりしないでください。
- スペーサーは、当日の施工終了後に取り除いてください。翌日では取れなくなることがあります。

施工ポイント ④ 壁際のすき間確保

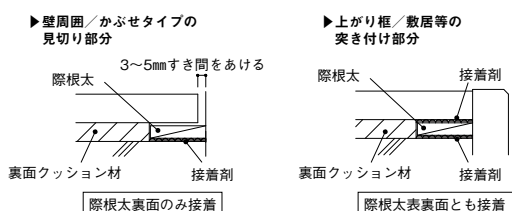
巾木はフロア施工後に取付けとして、クサビ/合板等を使用してフロアと壁際に3～5mmのすき間をあけて施工してください。

- かぶせ量の少ないソフト巾木は使用しないでください。



施工ポイント ⑤ 際根太の施工

際根太は、図を参考に接着剤を塗布して施工してください。



ラストィック フェイス防音床暖45 VC／防音床暖40 VC
メイボクデザイン防音45／防音床暖45／防音床暖40
カナエル R防音45／防音床暖45／防音床暖40
カナエル C防音45／防音床暖45／防音床暖40

施工にあたっての注意

施工は、必ず以下のいずれかの接着剤を使用してください。

	品 目	使用量
指定接着剤	コニシ株式会社 : KU-928R アイカ工業株式会社 : アイボンJW-280PRO 株式会社オーシカ : セレクティ UR-145	500 ～ 600g/m ²

- 施工中は、十分に換気を行ってください。**
- 接着剤塗布後、15分以内にフロアを貼付けてください。また、一度に塗布する面積は5㎡以内にしてください。**
- フロアの開梱は施工直前に行ってください。開梱後12時間以上放置すると寸法安定性を損ないます。**
- 施工前に必ず仮並べをして、色柄の調和を見てください。極端に色／柄／品質の問題がある場合、お知らせください。(施工後における苦情、お取り替えについては応じかねます)**
- 頻繁に水がかかる場所、湿気が多い場所には施工しないでください。**
- 室温が5℃以下の場合、施工しないでください。接着剤の硬化不良が生じます。**
- フロアの固定には、絶対に釘を使用しないでください。**

下地施工

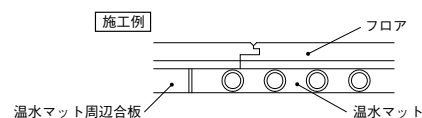
1 下地を清掃し、不陸がないことを確認する

まず、下地のゴミ／ホコリ等を取除き、清掃を行います。次に、**施工ポイント①**を参照し、平滑で不陸がないことを確認してください。

2 床暖房使用の場合、温水マットを確認する

温水パイプに穴が空いていないこと、段差や床鳴りがないことを確認してください。

- 床暖房使用の場合、床暖房用防音フロアを施工してください。**

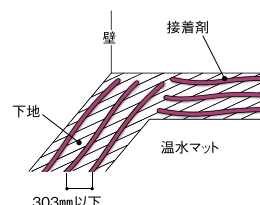


- 床暖房用防音フロアは床暖房ヒーター(小根太なし温水マット等)用フロアです。床暖房ヒーター(小根太なし温水マット)はヒーターメーカーおよびガス会社の仕様に従い、下地に確実に固定されていることを確認してください。**
- フィルムタイプの床暖房ヒーターや埋設式ヒーターには対応していません。**

3 床暖房使用の場合、温水マットの周囲を施工する

床暖房使用の場合、温水マットの周囲を以下の手順で施工します。

- ①温水マット周辺部(斜線部)には12mm厚耐水合板を使用します。
- ②温水マット周辺合板と壁および温水マットは3mm程度のすき間を設けてください。
- ③温水マット周辺合板固定用接着剤(ウレタン系)を川の字状に303mm以下で塗布します。塗布量の目安は200g/㎡以上です。
- ④温水マット周辺合板を釘で固定します。釘は「コンクリートネイルL=25～27mm」を使用し、303mm以下で固定します。



R-Design

C-Design

木質床材

一般住宅

マンション

直貼り
リフォーム
向け

衝撃吸収
床材

天然木
フロア

化粧シート
フロア

根太施工

二重床施工

捨貼り施工

防音・直貼り

直貼り

上貼り

框・式台

階段・手摺・
室内はしご

内壁材

あかり
サポート

ぬれ縁

ラスカット

構造用
ハイベストウッド

P&C-MJ
SYSTEM

設計・施工
資料編

製品掲載
ページ

122・126・127
130・132・136
138・140